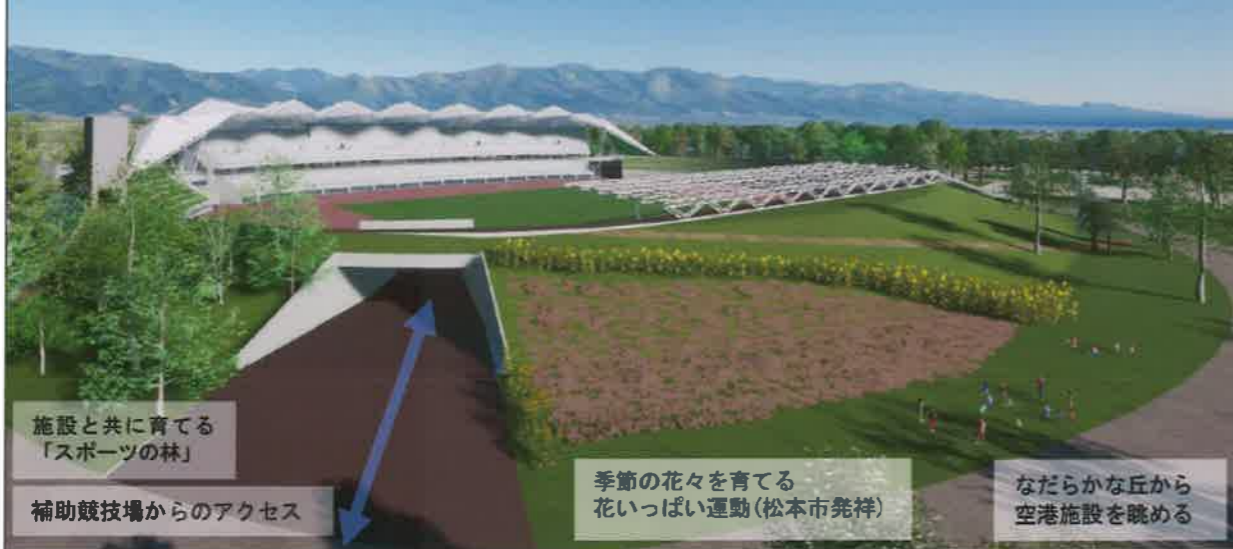


丘と緑に囲まれ、山並みが浮かぶスタジアム

フィールドを掘り下げ、排土を利用してスタジアムの外周に丘を囲みます。丘には子供たちが幼い苗を植え、子供たちの成長とともに木々が「スポーツの森」に育ちます。豊かに育った信州の木々が、日射や風からスタジアムを柔らかく包みます。北アルプスと呼応する山型シルエットの屋根が浮かび「山岳県信州」を印象づけます。緑に囲まれ、山岳景観と調和する。長野県のスポーツ文化の拠点を育てます。



北アルプスの山並みをモチーフに、ユニット化した屋根構造体がスタンドを包む

三角錐のシェル状の鉄骨フレームの立体構造ユニットを連続させ、フィールド側の軒先には山型のシルエットをデザイン。スタンド外周に屋根柱脚を下ろし、スタジアムの内外を包み込み空間をつくる。



観客席とともに、コンコースでも西日を柔らかくに遮り、スタジアム外部の活動を促す。

競技者と観客の一体感を生む断面構成

フィールド面を掘り下げ、外周レベルからスタジアムにバリアフリーでアクセスでき、平面がコンパクトで観客席からフィールドに近い2段式観客席で、臨場感のあるスタジアム。競技者と観客が一体感を生むスタジアムを計画する。

屋根構造体

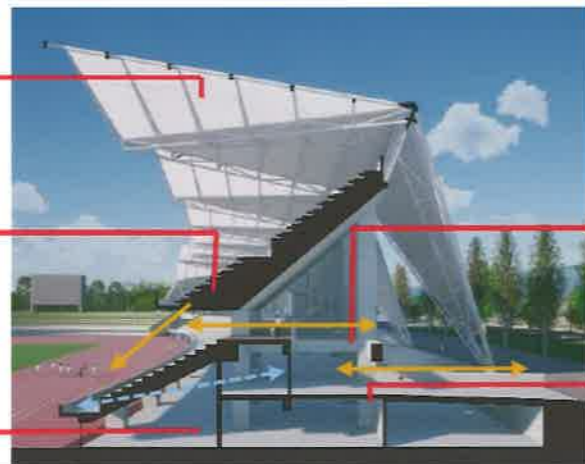
構造体ユニットは金属葺き山形の屋根は膜構造で、柔らかな影を落とす工夫。

2段式観客席

下段観客席上部にせり出し、競技者に近い臨場感。

1階フィールドレベル

管理諸室、選手関係諸室、器具庫を計画。130mの雨天走路は、バックスタンドに計画。



2階コンコースレベル

コンコースがスタンドの外周と連続してスタジアムを一周する観客メイン動線。コンコースからもフィールドの雰囲気を感じる事が出来る。

中2階コンコースレベル

メインアプローチ、体育館と連携するレベルで、観客席前部の身体障害者席にアクセスしやすく、観客用トイレをこのレベルに設置。床タイルや壁を長野県産木材で仕上げる。

ランドスケープと一体となり様々な活動を生み出す



緑豊かなランドスケープを育てる

スタジアムと公園に愛着を持ち、「スポーツの森」を育てる。



自然の循環を生む設備システム

自然エネルギーを活用し、ライフサイクルコストを削減する。

太陽光発電	メインスタンド屋根には太陽光パネルを設置し、太陽光による発電を行う。この電力を施設内で活用すると共に蓄電池への充電も行う。
太陽熱利用	メインスタンドの屋根に太陽熱集熱パネルも設置し、太陽熱を蓄熱し給湯用補助エネルギーとして利用することで、給湯エネルギーの削減を行う。
水の循環	メインスタンドの屋根、競技場からは雨水を集水し、雨水貯水槽へ集水する。この雨水は中水として利用することで、トイレ洗浄水、散水として利用する。雨水貯水槽の水は盛夏時の冷却用として用いる。放射冷却も可能とする。このことでスタジアムのスタンド部分を快適空間へと変身させることができる。排水の一部を浄化槽で浄化し、さらに高度処理を行い、中水補給水とする。災害時は施設内での排水処理の継続と中水確保の水循環を可能とする。
木製受水槽	受水槽は県産材を用いた木製受水槽を設置する。水温や水質の変化が少なく、北アルプスのおいしい水をそのまま供給できる。木製とすることで部分処理が可能で、地元での手当てが可能となる。

航空機からの俯瞰。丘と林に囲まれて山型の屋根が浮かぶスタジアム。



屋根架構がコンコースの空間を包む

